

平成三十年 造幣局桜の通り抜け

俳句入選句

辻田 克巳 選

特
選

(三句)

花の名をおぼえつつ花愛でにけり

兵庫県神戸市

岡 京子

1

【評】

同じ桜でも品種が異ると名前が違うから一一覚えられなくても対応するしかない。花を愛する気持ちに変わりはないのと思いつつながら桜花を見ているのだ。

遠つ国の人と話すも花の縁

大阪府寝屋川市

大西 孝雄

【評】

何もかも、人と知り合いになるのも、桜の花を見に来たお蔭、とその功德を思うのである。遠つ国は外国ではなく、遠く離れた、という意味の気がする。

幾たびの春の思ひ出通り抜け

兵庫県川辺郡

小林 恕水

【評】 春になると恒例のように通り抜けに花を愛でに来るのだろう。さて今までに何べんと春の思い出を思い出す。「通り抜け」はもう季語にしてもと思う。

入選

(五句)

九十差のひ孫と共に通り抜け

大阪府大阪市

山野 金子

通り抜けまたこの花の下に立つ

大分県大分市

村上 久子

お気楽なお一人様の花筵

大阪府羽曳野市

松山 佐喜雄

異国語の中に日本語八重桜

大阪府藤井寺市

鶴賀谷 修

般若心経小声で唱ふ花吹雪

大阪府大阪市

駿河 喜代子

佳作

(三五句)

車椅子押され万朶の花仰ぐ

三重県桑名市

松本 英

花仰ぐ互ひに一つ歳重ね

兵庫県川西市

岩崎 葉子

残る花仰いで通る通り抜け

奈良県生駒市

塩川 弘子

人は世に世は人につれ八重桜

大阪府大阪市

中本 宙

八重ざくら母と眺めし日を偲ぶ

大阪府大阪市

東野 八重子

定年を迎へし夫と通りぬけ

大阪府大阪市

三宅 通子

花びらも馳走となりぬ花の宴

滋賀県草津市

田中 幸湖

ふりかへりふりかへり見る八重ざくら

大阪府松原市

菅 勝彦

散り急ぐ花におのれをかえりみる

大阪府大阪市

中川 晋

花にくる鳥のあまたや通り抜け

大阪府守口市

中田 梵

ちちとははみせてあげたいとほりぬけ

大阪府門真市

和田 登志江

生きてゐることの幸せ通り抜け

大阪府守口市

中田 文子

教へられ今年の花に会ひに行く

岐阜県岐阜市

眞鍋 倭文子

初めての桜に稚やの手を伸ばす

大阪府大阪市

歳岡 信子

死にみやげ一人さびしく花見かな

大阪府大阪市

野口 益子

ガス灯の点火が終はる夕桜

大阪府大阪市

濱上 よしひろ

花見船提灯ともし出航す

大阪府大阪市

圓山 望子

生きのびてやっと来ました通り抜け

大阪府枚方市

田中 伸子

喜寿を祝ぎ同期の集ひ花の宴

兵庫県神戸市

三甲野 としえ

「あ」の口で桜見上げる女の子

大阪府堺市

天野 姫城

夜は又夜の人出や通り抜け

大阪府大阪市

小田 幸子

ちらと笑む知らぬ同志が花の前

大阪府大阪市

藤田 千恵子

きよねんよりきれいになったさくらかな

奈良県生駒市

にし せいのおすけ

ポンポン船の音に寄りゆく花筏

大阪府寝屋川市

大西 陽子

胸像が半眼に在す花の雨

大阪府大阪市

濱上 よしひろ

選者吟

辻田 克巳

洗面の前を散りゆく落花かな

落花もて花咲く如し苔の上

落花の地へ身をこすりつけ犬喜ぶ

向うにも花を見に來し杖の人

太幹にぢかに花咲く桜あり